



よりお声を掛けられた人々は、「その慈愛に満ち溢れたお言葉に涙が溢れ、生きる勇気を頂戴した」と話していました。常に国民の上に思いを馳せられるお姿はこの上もなく尊いものと感じられずにはいませんでした。その折県内十社に幣饗料を賜りました。当社もその栄に浴したわけでございますが、両陛下の思し召しに對しまして恐懼の極み存じます。宗像大神も殊のほか愛でられたものと感ぜられずにはられませんでした。

また四月には(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会福岡県本部が設立され、既報の通り十一月に同宗像支部を設立、第六十二回神宮式年遷宮への奉賛活動が始動致しました。日本民族が太古の昔より心の紐帯として崇めてきた神宮は、我が国の信仰的・文化的核であり、国民の拠り所でございます。『国家第一の重儀、神宮無双の大本营』として連綿と継承されてまいりました式年遷宮への赤誠を、心より願い上げさせていただきます。



元旦払暁、宗像大神の鎮まります境内に、初日の陽光が輝き初めると、将に大神の顕在を憶え御神威を感じずにはられません。鎮守の杜の存在意義を強く意識するわけです。地球温暖化による環境破壊が世界を大きく揺るがし、クロースアップされておりますが、自然との共生も神道の根源であります。鎮守の杜が神と人との交流を育み、畏敬の念を醸成すると共に地域、ひいては国民の融和に大きな役割を果たしていると言っても過言ではありません。杜を大切に、いつの世も変わらぬ姿を保ち続けることが、人々に郷土愛や愛国心を芽生えさせる重要な要素でもあります。永い間に培った民族の知恵を啓発し、発信することが環境問題対策の一つではないでしょうか。

末筆乍、昨年も当大社恒例の諸祭儀が恙なく齎行され、神賑行事も無事盛大に執り行うことができました。これも偏に氏子崇敬者の皆様方の真心からなる御奉賛の賜物と深く感謝申し上げますと共に、宗像大神の御神慮を蒙り、本年平成二十年が皆様方にとりまして輝ける年であり、祈り申し上げます。年頭の御挨拶と致します。



画像情報企業

株式会社 ゼネラルアサヒ

〒812-0064
福岡市東区松田3丁目777番地
TEL 092-611-8311

FedEx Kinko's
Office and Print Services



デジタルグラフィックス研究所
宗像市アスティ1丁目5番地

古式祭・鎮火祭齋行

田班(とうばん)という宗像地方独自の神事である。

祭典はまだ夜が明けない暗闇の

午前六時、前日から参籠(さんろう)神社に泊

まり世俗との関わりを断つことし

た(高宮権宮司)以下神職が奉仕し、

宗像市田島・江口両区長、氏子会長、

地元総代が参列し齋行された。

御神前には、ミカンの原種である

「九年母(くわんぼ)、宗像の浜にこの時期しか

打ち上がらない「ゲバサモ」と呼ばれ

る海藻など、この祭典だけに調製さ

れた特殊神饌が供えられた。

一方、清明殿入口には午前五

時頃より、同六時の「御座」受付

開始を待ちわびる参拝者の列が

出来た。御座の一番座は、祭典

後の午前六時三〇分から一座五

十名で始まり、本年は五番座ま

で約二一〇名が参列された。膳

には特殊神饌として神前に供え

られたものや、田楽・方メ煮・甘

酒・なま酢などが並び、参列者

は平素口にするのできかない

御膳に舌鼓を打ちながら、神人

和楽の一時を過ごした。

「鎮火祭」

同日午前十時からは鎮火祭が

齋行され、古式ゆかしく火打石

で忌火を起こし、瓠(かき)で水を汲み

火に注ぎ忌火を鎮め、その上に赤土をかけ川菜で覆う「鎮火の儀」が行われた。

迦具土神の荒びを鎮め、その災い

を受けることの無いようにと、火災

の絶無と消防関係者の安全を祈り、

谷井宗像市長、池浦福津市長をは

じめ、両市内の消防関係者、小山・

山田県議会

議員、末本宗

像警察署長、

氏子代表者

らが参列し、

敬虔な祈りを

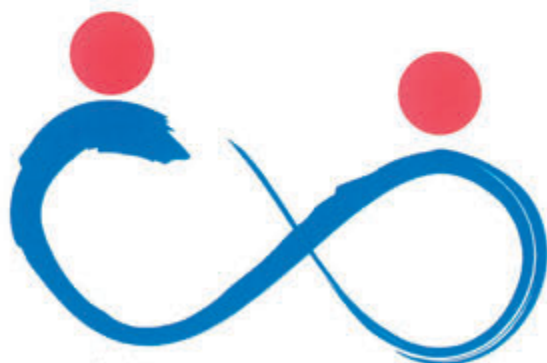
捧げた。



古式祭「御座」の様子



鎮火祭



響きあって九州
あなたとともに西日本新聞

本社
〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号
TEL092(711)5555代
FAX092(711)5152

東京支社
〒104-0028 東京都中央区八重洲2-8-7福岡ビル
TEL03(3273)8585
FAX03(3273)8586

大阪支社
〒541-0041 大阪府中央区北浜3-1-21松崎ビル
TEL06(6202)6351
FAX06(6202)6356

北九州支社
〒803-8515 北九州市小倉北区田町19-5
TEL093(561)1131
FAX093(561)7793

 西日本新聞社

平成二十年 迎春の準備 大注連縄を懸け替え

十二月八日、新年を迎えるにあたり

り辺津宮の御本殿・第二宮・第三宮の大注連縄懸け替え奉仕が行われ、薬の香りが漂う、真新しい注連縄が、大島の沖・中両宮奉賛会・同翼賛会、田島の総代・協力会ら約二十名の御奉仕により無事取り付けら

れた。

注連縄の奉製作業はまず「薬すぐり」から始められる。十月初旬に刈取った稲を懸稲(畦懸け)にして天日で乾燥させ、十一月初旬に脱穀した後、地元田島の総代・協力会の方々が総出で、一握の薬束を千五百本程作り大島へ送った。



大島では十一月下旬に沖・中両宮奉賛会・翼賛会の皆様の御奉仕により、時化の時を見計らって大注連縄が廻られた。当大社の注連縄は中央部分をかなり太めに作る「鼓胴型」と呼ばれる型だが、二本の束を縫り合わせる作業は大変難しく、長年の経験と試行錯誤により三十年余りも受け継がれてきている。

完成した大注連縄は、大島から海を渡って辺津宮へと運ばれ、先ず辺津宮、次いで第二宮・第三宮が懸け替えられた。作業終了後には直会

が催され、大島・田島双方が分担した苦労話で大いに盛り上がり、終始和やかな内に終了した。

近年、農機具の機械化により「薬」の入手が難しくなっていたが、平成八年に当大社御神田が復活し、神饌米の収穫を得て年間のお供えと、不足ぎみだった薬の確保が出来る様になった。

また、当大社の大注連縄は薬がばらばらになることのないようにと、大島の漁師の発案で、ブリなどの大物を釣り上げる時に使う透明のテグス(太い釣糸)が等間隔で美しく巻かれている。初詣参拝の折には、農家と漁師が思いを込めて奉製された大注連縄もご覧下さい。



御奉仕いただいた地元田島区の総代と大島の氏子の方々

あなたのいちばんに。

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

明けましておめでとうございます。
今年もよろしく
お願いいたします。

 福岡銀行

宗像支店 宗像市東郷5-4-5 TEL 0940-36-2017

赤間支店 宗像市土穴2-1-17 TEL 0940-33-7211



巫女職におけるリーダー育成研修

（株）CMCによる、初めての外部研修を実施

十二月六日、一般企業や行政への様々な研修を専門に行っている（株）CMC（福岡市）より講師をお招きし、神職・巫女・事務員を対象とした初めての外部研修が清明殿で実施された。

今回の研修は、日頃お守り・お札の授与や参拝者の応対を中心とした社頭奉仕にあたる巫女職、電話や来客者を応接する事務職を対象



研修の様子

に、それら両方の社務も行う神職を立ち会いとして、勤務の終了した午後五時過ぎから行われた。講師に（株）CMCより高原優子氏をお招きし、事前に分けられた班ごとに、講師を囲むようにテーブルを並べ、その後ろで神職が様子を見守るという形で始まった。冒頭、CS（顧客満足度）とは何かから入り、神社という職場環境、その上で必要なビジネスコミュニケーションとは何か、そしてその重要性、各職制として何が求められているか等のテーマを、班ごとに話し合うディスカッション形式で進んだ。

テーマごとにリーダーは変更され、笑い声もあつた和やかな雰囲気であったが、「初対面の方との第一印象は〇、五秒で決まる」といった数値的な話になると一同真剣な眼差しでメモをとり、二時間はあつという間に過ぎた。研修後、同講師は「巫女さんら若い職員の方々は

本当に純粋。普通一回の研修では充分に理解していただくのは難しいが、反応を見た限り、まるでスポンジのように吸収していただいたように思う。今後、どう実践していくかが重要だが、少なくとも効果は現れてくると思います」と感想を語られていた。

今回の研修は一般企業から神社用にカスタマイズされた宗像大社オリジナルの研修内容で、神社という特殊な職場でもそのまま通じる内容となっていた。今後「わかつてい



講師の高原優子氏

る」から「はやく・正確に・できる」へ、この研修が日頃の社頭奉仕や社務に実践されるよう努めたい。



New

交通安全錦お守り

錦袋に入った交通安全の肌守が、新しくなりました。

日本で最初の自動車内専用お守りとして知られ、昭和三十八年（1963）に頒布を始めて以来半世紀の伝統をもつ「水引お守り」をモチーフにしました。

交通安全・宗像大社の象徴といえるこのお守りの、裏面や雲のデザインをあしらっています。

大きさは参拝者の皆様に好評の小型サイズですが、他の錦お守りとの違いを出すため若干細長い形となっております。

本年、正月より本殿・祈願殿各授与所でお受けいただけます。



おもて

うら

初穂料
1,000円

出光タンカー(株)「出光丸」宗像大神鎮座祭齋行

去る十一月三十日(金)、出光タンカー株式会社の定期用船V.L.C.C「IDEMITSUMARU(イデミツマル)」が就航した。

約二年前よりIHIマリンユナイテッド呉第一工場において建造されており、この度の就航を迎えられた。この船は燃料油タンクの二重構造やVECS(積荷(原油)を積み込む際に発生する貨物蒸気など有害の混合気体を大気中に放出しないよう、陸上設備へ戻す為のシステム)を

採用しており、より一層環境に配慮した船となっている。全長は三三三三、幅六〇、載貨重量三〇万四三三メートルトクトン、実際に目前にするに信じ難い巨大さである。

就航に先立ち十一月二十八日(水)同船への宗像大神鎮座祭を奉仕する為、当大社より高向権宮司以下神職二名が宗像大神の御神璽を捧持し呉へ出向した。翌二十九日(木)午前十一時より同船操舵室に於いて宗像大神鎮座祭が齋行され、



無事船内の神殿へと奉安された。次いで同日午後二時より出光タンカー(株)代表取締役社長川田廣太郎氏外関係者乗組員一同

参列のもと鎮座奉祝祭が齋行され高向権宮司の祝詞奏上に続き出光タンカー川田社長・同船藤戸船長が玉串を捧げ拝礼し、末永い航海安全を祈念した。引き続き神職二名が大

麻・切麻にて操舵室・機関室・ブリッジ左右より清祓神事を行い祭典は滞り無く終了した。

翌三十日より宗像大神を奉齋した同船はジャバル・ダンナ(アラブ首長国連邦)に向け処女航海の途につき一月七日頃千葉製油所へと源油を下ろす予定である。



エアコンの取付工事も OMAKASE!

キッチンのリフォーム工事も OMAKASE!

お風呂やトイレ配管工事も OMAKASE!

床暖房の工事も OMAKASE!



住まいのことなら、何でもおまかせ。



九州国立博物館沖ノ島祭祀コーナー

第五期展示品の入れ替え作業を実施

九州国立博物館(以下、九博)は開館二周年を迎えた。開館の際、同館四階の「文化交流展示室」一角に沖ノ島祭祀遺跡出土品展示コーナーが設けら

れ、その後、当大社は半年毎に展示替えをしながら様々な沖ノ島神宝を出陳し、ヤマト政権による沖ノ島祭祀の一端をご紹介してきた。今春の展示替え

から半年たった十一月十二日、第五期目の展示替え作業が行われた。



第五期展示

今期も今まで同様、沖ノ島祭祀との関連で重要視されている韓国竹幕洞祭祀遺跡出土品と併せての展示となったが、同出土品については借用期限が第四期までとなっていた滑石製品(円板、剣形品)が返却されたため、今回、借用したまま展示する機会が無かった大甕を沖ノ島祭祀遺跡出土品の新た

な比較資料として初めて展示することとなった。

ところが、この大甕、あまりにも巨大であるため、展示作業は難航した。ケースへ大甕を抱えて入れる際にも手間取り、また、状態を安定させ静止を保ち、沖ノ島神宝とつりあいのとれた展示にする事にも難儀した。しかしながら、慎重に作業をすすめて無事に展示作業は終了。個々の存在感が際立つフランスのとれた良い展示が完成した。

この度の出陳品は、船載鏡の可能性を秘めた三角縁神獸鏡、ガラス製切子玉、躍動的な唐草の意匠が優美な金銅製透彫金具、聖なる祭祀具として不可欠である鉄剣、金銅製雛形壺、神の荒魂を鎮める滑石製人形、形状の変化に富んだ土器など計六十七点。沖ノ島祭祀において奉獻された品々の概要と特徴を網羅した内容となっている。出陳期間は十一月上旬から四月下旬までの予定。今回、九博では沖ノ島祭祀を解説する小冊子を作成し、展示室で配布するとのこと、沖ノ島の歴史や当大社の由緒を多くの方に認知して頂く良い

機会となりそうだ。

出陳品のうち金銅製人形については、全国各地の祭祀遺跡で確認された土製、木製の人形を紹介するコーナーで、国家的祭祀に捧げられた貴重な事例として十二月初旬より展示予定である。



三角縁神獸鏡



金銅製唐草文透彫金具



■ガラス製切子玉



展示作業の様子

第十回出光興産(株) 中堅社員研修 宗像大社研修所感

出光興産株式会社
人事部教育課 野村 浩樹

十一月三十日より十二月二日までの三日間、第十回宗像大社研修を実施させていただき、三十五名の研修参加者がお世話になりました。

宗像大社研修の目的は、「日常生活

活と離れた神域に身をおくことで感性を高めること」「創業者・店主出光佐三が多大な影響を受け経営の原点とした日本特有の伝統文化に触れその思いを感じ取ること」の二点です。

前日まで慌しく仕事をしていた研修参加者も、ひとたび宗像大社に入りご神前に額づいた後は清々しい心持ちとなり、これから研修に臨む姿勢が瞬時に整いました。

研修開始に際して高向権宮司から「出光佐三店主の宗像大社に対する崇敬心を大いに感じ、今後の活躍の糧として欲しい」とのお言葉をいただき、参加者一同、身の引き締まる思いでした。

白衣白袴の着装・祭式作法は、不



初めて高宮の月次祭に参列

慣れた研修参加者を手取り足取り懇切丁寧に指導いただき、どうか一通り覚えることができました。研修二日目、十二月一日は月次祭にあたり、宗像大社の公式行事に参加するという機会に恵まれました。高宮と辺津宮での祭典や辺津宮拝殿での浦安舞奉納は大社の荘厳



祓舎でお祓いも受けました

謹賀新年

新しい年が素晴らしい一年となりますよう
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます

2008年元旦



ダイドードリンク株式会社
九州支店
092-663-2171

ダイドードリンク株式会社
福岡南営業所
092-574-4642

ダイドードリンク株式会社
福岡東営業所
092-663-2310

ダイドードリンク株式会社
北九州営業所
092-621-3741





大島の中津宮にも参拝

さを感じることができました。その後、大島に渡航し、中津宮正式参拝と沖津宮遥拝をさせていただきまし
た。今回は残念ながら遥拝所より沖ノ島を確認することはできませんでしたが、目で確認することができなかつたが故に一層、沖ノ島の神秘性が増したように思えます。何人もの研修参加者が「一度沖ノ島に行つてみたい」と申しておりました。
神職の皆様との懇談は、前回より時間を増やし、とても有意義なひとときとなりました。神道に関する素朴な疑問から日常生活に至るまで、



高宮での鎮魂

様々なことについてご教示いただきました。
宗像研修では、宗像大社の荘厳さとご指導いただきました神官の皆様との真心に触れ、こころ洗われる体験をさせていただきました。
研修参加者からは、「日本人の心を取り戻し、日本人はどうあるべきかについて真剣に考えさせられた」「自然への畏敬の念や自分が周囲によつて生かされているという謙虚な気持ちが大切であることを再認識した」という感想が数多く寄せられ、宗像大社研修の目的が十分達せられ



神社祭式の講習



神職との班別討議



高向権宮司



水島人事部次長

たものと考えます。宗像大社の皆様
にいただいた親切心と私どもへの期
待を忘れず、仕事や生活に活かして
いく所存です。
最後に、宗像大社の皆様の益々
ご繁栄をお祈り申し上げ、研修の御
礼とさせていただきます。

TOYOTA

福岡県トヨタ販売店グループ

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社

取締役社長 金子 直幹

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4丁目8番28号
電話(092)761-3331

トヨタカローラ福岡株式会社

代表取締役社長 有田 耕一

〒810-8603 福岡市中央区長浜2丁目1番5号
電話(092)712-7111

ネットトヨタ北九州株式会社

取締役社長 宮里 宣哲

〒806-0041 北九州市八幡西区皇后崎町14番6号
電話(093)642-2111

福岡トヨペット株式会社

代表取締役社長 山口 正俊

〒812-0008 福岡市博多区東光1丁目6番13号
電話(092)411-1121

トヨタカローラ博多株式会社

代表取締役社長 久恒 兼孝

〒812-0042 福岡市博多区豊2丁目3番50号
電話(092)441-2111

厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習であり、我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちで過ごしてください。

八方塞

はっほうふさがり
陰陽道での方向に向かつて事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはしめる方は要注意とされています。

暗剣殺

あんけんさつ
「九星術」でその年の五黄土星と相対する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

厄年年齢表

昭和43年	昭和42年	昭和41年	昭和38年	昭和33年	昭和29年	昭和24年	昭和23年	昭和22年	昭和20年	昭和15年	昭和11年	昭和6年	昭和2年	大正11年	大正7年	生まれ年
前厄(男)	大厄(男)・暗剣殺	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	前厄(男)・暗剣殺	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	厄
平成15年	平成11年	平成6年	平成3年	平成2年	平成元年	昭和60年	昭和59年	昭和58年	昭和56年	昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	生まれ年
暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	前厄(男)・暗剣殺	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	前厄(女)	大厄(女)・暗剣殺	後厄(女)	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	厄

節分祭の御案内

日 時 2月3日(日)
節 分 祭 午前10時～
豆 打 式 祭典終了後～
場 所 祈願殿(大駐車場前)



「むなかたさまのまつりごよみ」頒布中

昨年、土井国男氏のデザインで十年振りに復活しました「祭りごよみ」が本年も完成し、十二月初旬より頒布しております。今年も同氏のかわいらしいイラストで美しく描かれ、月ごとに宗像大社の祭事が御覧いただけます。本殿・祈願殿各授与所でお受けいただけます。尚、新年の御祈願をお受けいただいた方には、お供物にお付けしております。

※各授与所にて 初穂料=300円 でお頒布しております。

謹んで新年の御祝詞を
申し上げます
平成20年 元旦



株式会社 ハーベスト警備
福岡県公安委員会認定第581号

代表取締役 坂上 正晴

〒813-0044 福岡市東区千早5丁目21-2サンビル2F
TEL (092)673-0180 FAX (092)673-0190



福岡ダイハツ販売株式会社

代表取締役社長 内山 邦彦

〒812-0007 福岡市博多区東比恵4丁目10番11号
電話(092)411-1330【代表】



福岡国際
カントリークラブ

〒811-4146 福岡県宗像市大字朝町1470-1
電話(0940)32-3544【代表】



法人 日本自動車連盟 九州本部

本部長 金子 宜嗣

〒814-8505 福岡市早良区室見5-12-27
電話(092)841-7676【代表】



玄海を望む風光明媚な格調高いシーサイド・コース

玄海ゴルフクラブ

〒811-3502 福岡県宗像市江口578-18
電話(0940)62-2233【代表】
FAX(0940)62-2728



(続)

浜の寄物

221



いしい いたし

第七回漂着物学会は鹿児島県・種子島で十月二十七・二十八日に行った。会場は西之表市・種子島開発総合センター(鉄砲館)で行い、講演・研究発表を二十七日に、二八日は南種子町の宇宙科学技術館前の竹崎海岸と、広田海岸でピーチコミングをし、二日間学会を終了した。

二十七日、学会の基調講演は地元、南種子町教育委員会の石堂和博氏が「種子島の砂丘遺跡―砂浜に残された記憶―」であった。この種子島は天文十二年(一五四三)ポルトガル船の漂着、鉄砲伝来地として知られ、現在は宇宙基地として、日本科学の



広田海岸「広田遺跡」

最先端の地である。もう一つ考古学では著名な広田遺跡がある。講演は広田遺跡を中心とした砂丘遺跡であった。一九五五年夏、台風がこの島を通過したが、その時に広田海岸の砂丘が風浪で崩れ、そこから人骨や貝製品が多数発見された。

一九五七年から五九年三次にわたる調査が行われた結果、ここは弥生時代後期から古墳時代後期、約四〇〇年間の墓地であることが分かった。人骨は一五七体あり、副葬された約四万四千点の大量の貝製品が発掘された。貝の種類はイモガイ、ヤコウガイ、オオツタノハガイなど奄美以南に棲息する大型貝で、それらを加工した貝製品は貝輪や貝符、装身具、貝製容器などであった。イモガイ科の巻貝から作られた竜佩状貝製品や、貝符はおふだ状の貝製品で、共に装飾品である。また貝符の中に山の字を刻したものがあり、我国最古の文字ではないかと考古学会を驚かした。

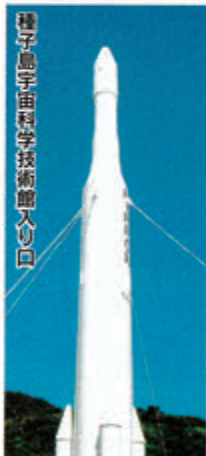
二〇〇五年、六年には五十年ぶりに調査が行われ、今迄南北に広がる砂丘の南側だけに遺跡があると思われていたが、北の広田川側にも遺跡が広がっていることが確認された。この調査で十五体の人骨、貝符などの装飾品も発掘された。特に北区

一号人骨は壮年男子で下半身は侵食で流出していたが、上半身部が残っていた。腕にはオオツタノハガイ五つの貝輪を装着し、ヤコウガイ製の貝匙が副葬されていた。この人骨の第二、第三腰椎の左側のところに磨製石鎌があった。射込まれた可能性が高いという。多数の貝製品を身につけた祭祀集団に、なにやら血なまぐさい抗争も見えてくる。



最近採集された貝輪や貝符

三次にわたる調査で一五〇体以上の人骨は弥生後期から古墳時代後期の頃のものである。発掘で次のことが分かった。幼小児の人骨が少ないこと。人骨の特徴では後頭部が扁平に変形していること。いわゆる絶壁である。短頭、人類学的には東日本縄文人やアイヌに匹敵する立体的な顔をもっていること。四肢は著しく華奢であること。身長は男子一五四センチ、女子一四二センチと低身長である。神につかえる特殊な集団者の墓地ではないか。次回は石堂氏の案内で歩いた広田海岸を記したい。



種子島宇宙科学技術館入り口

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

玄海国定公園の中心
一風光明媚、生魚料理、宗像大社となり—
玄海ホテル旅館組合

魚屋本店 ☎ 六二一三二二

魚屋別館 ☎ 六二一三三五

玄海旅館 ☎ 六二一〇〇一

玄海口イダルホテル ☎ 六二一四一一

神湊スカイホテル ☎ 六二一三八〇

高嘉旅館 ☎ 六二一一二二

はなわらび ☎ 六二一〇一七

松風荘 ☎ 六二一〇二〇

みなと荘 ☎ 六二一二五五

国民宿舎ひびき ☎ 六二一一八八

第五五七回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

宗像市 中央 中村 勇

参道に落ちし櫓の実を踏めばかすかな音が靴に伝わる
固い櫓の実は踏まれてもくだけない。靴と実と大地とがふれ合った音である。たからかすかな音であり、繊細な一首。

うきは市 浮羽町 向 則正

竜飛灯台わきのチングルマ小さく白き花静かなりけり
チングルマは中部以北の高山にはえる十センチ位の草丈の小さな花だから静かなりけりこと嘆いた南国の歌人。

北九州市 八幡西区 吉田 ウト子

手底の筋に隠るる紅の粒ステロイド剤に命を待む
掌の筋にかくれるような小さなものに掩す生命をいとおしむ作者の姿が見える。

福岡市 中央区 加野 シノブ

笑をもて八十路の我を手にとりてやはき腕にささえ行く娘よ
「ほほえみて八十路の吾の手を取りて支えゆく娘の腕はやはらかし」と詠み変えた方が良く判る。

福岡市 中央 池浦 千鶴子

子の声の聞きたくなりて電話しぬ帰宅途中か息あがりなり
何時でも何処でも相手の声が安否が確認出来るケータイ、上旬は「聞きたくて電話をすれば子の声は」が順直な表現だろう。

福岡市 若木台 野間 精一

波荒く近づき難き島陰に十六羅漢の岩立ち並ぶ
長門青海島の晩秋の景か、三句は「島のそこ」の詠み変えも考えられる。

北九州市 戸畑区 田中 ハツセ

夫々の着物に浮かぶ思ひ出は吾が来し方の歴史を語る
着物は女性にとっては第二の生命かも知れない。それをやや概念的ではあるがうまく詠っている。

宗像市 日の里 大和 美由紀

純白のサビタの花の残り咲く猪の通りし山道を行く
サビタはのりうぎの異名。サビタと猪の取合せが一つの風情を醸し出している。把木に住む友人の散弾に撃たれなだりを駆け来し猪の頭にとどめ撃ち込む。中島晴喜を思い出した。

福岡市 星ヶ丘 佐々木 和彦

石の白家の置き物にされていくれが時に溜りていたり
二句三句が説明的なのが惜しいが、石白に溜まった水から遠く秋の気配を感じた一首。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

宗像大社短歌大会無事に終え秋空仰ぎて深呼吸せり
今年の大社の運営委員の一人であった作者ならではの安堵感と感慨である。こ苦勞さまでした。

宗像市 田久 巻 桔梗

伊勢宮の古材で第二・第三成し裏伊勢と大社は呼ばる
伊勢神宮と宗像大社の知られざるつながりを詠った一首。目の付け処がいい。

福岡市 南区 井田 有久衣

箱根路を散策すれば山核四・五輪ひらく深まる秋に
返り咲きの花を見つけたのが箱根とあれば感慨も一入りであろう。素直な歌。

宗像市 田野 森 甲子

撒き餌に五六十羽の鷺空中で必死で取り合ふその凄まじさ
常はのどかに輪を描いている鷺も、生命の根源である食べ物ともなれば本性むき出しとなるのである。下旬具体的に述べると一段と迫力のある歌となるのに惜しい。

宗像市 光岡 森田 富佐子

枯葉散り寒風吹きつくつ方冬の訪れ早思われ
宗像市 光岡 則松 芳子

紅葉し寒々とした外気浴び冬の足音木枯しの吹く
お二人共に同じような状況が詠われている。秋から冬へと移る季は一番寂しい季節かも知れない。ましてや同じ境涯にある二人ともなれば、向きあへる座席に並ぶ女子高生

額よりたらせる髪を陰として
街にきて老のまなこの保護する
すがる少女の形よき賢

子がるおとめはジカバチのように腹の黒い美しい少女(万葉集(9))



第五三二回 俳句作品集

宗像市 東郷 田中 憲象
遠投のそれるや一礼暮るる秋
宗像市 日の里 花田いつ枝
笙の音に鎮もる宮居桐一葉

1月祭事暦

10日 恵比須神社祭 午前11時	1日 歳旦祭 午前7時 総社地主祭 午前9時 総社祭 午後 総社祭に引き継ぎ 高宮地主祭 高宮祭・第三宮祭 第二宮・末社祭
13日 献米奉告祭 午前11時	2日 新年祭 午前9時
15日 月次祭・成人祭 午前10時 高宮祭 午前11時 第二宮・第三宮祭 午後 総社祭・成人祭	3日 午前9時 元始祭 午前10時 宗像護国神社新年祭

編集後記

明けましておめでとうございます。今年には十二支の首位(子年)です。何かを始める、取り組むには良い年です。このねずみですが、弥生時代に稲作とともに日本に渡ってきたといわれており、ねずみ算式に増えることのように多産です。さらに北極から砂漠までどんな環境にも適応し、世界には約1800種がいるそうです。▼よく吠えた戌年の一昨年、信じるままに猪突猛進した昨年、今年はずみにあやかっつて活動的に、様々な実りを体感できる一年にしたいと思います。▼皆様もねずみの旺盛な成長力と子孫繁栄にあやかり、多幸・多福なめでたい一年となります。よこし祈念申し上げます。(M.O)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 藤津幹之
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円